

可能性を見つける

東京都立園芸高等学校

動物科一年 高久 心暖

私は東京都の離島である式根島で生まれ育ちました。式根島は人口約四百七十人の集落です。年々少子高齢化による人口減少が進んでいて、東京都が定める過疎地域に含まれています。島内で働くことができる職種は限られているため、式根島で育った多くの若者が島外に就職し、島に残る若者が少ないという現状があります。そして、人口減少によって増えた空き家も大きな問題です。若者や子育て世代の減少によって、島内の産業の衰退も深刻化しています。五十年間で民宿の軒数は約五分の一に減少、通年営業する飲食店は現在たったの二軒となりました。このままでは、観光客が旅行に来ることが難しくなるでしょう。観光業は式根島の産業のうち約五割を占める主要な産業です。もしも民宿や飲食店の減少などによって観光客数も減少すれば、式根島が消滅集落となる日も遠くはないのだと思います。

式根島中学校では、総合的な学習の時間で式根島のもつ可能性に着目し、島を盛り上げるための様々な活動をしています。グループごとに探求テーマや目指すゴールを設定し、約七か月間、全学年合同でテーマについて研究します。例えば、あるグループでは、明日葉や島唐辛子といった島の特産品を使用したオリジナルレシピの開発を行い、レシピコンテストに出場していました。島唐辛子をスイーツに使用するなど中学生ならではの斬新なアイデアで今までにないレシピが考案されていました。私のグループでは、「観光客に式根島の良さを伝える」を探求テーマとして、中学生目線で島の魅力を観光客に発信するパンフレットを作成しました。住み慣れた場所ですが、改めて自然環境や景色、食べ物などに注目すると、式根島の良さを再確認できました。温泉や星空、透明度の高い海、おいしい郷土料理など、今まで当たり前だと思っていたものの良さに改めて気づきました。今までは、式根島に対して人や物、職種が少ないなどのネガティブなイメージを持っていましたが、この活動を通して、特産品や景色など式根島にしかないたくさんの可能性もあること、人口が少ないから

こそ美しい自然が守られていることを知りました。問題点は視点を変えることで、可能性にもなりうることを学びました。深刻な問題に思い悩むよりも、地域を見つめ直したり、視点を変えて問題への理解を深めたりして可能性を見つけ、その可能性をどのように活用していくか考えることが重要なのだと思います。実際に式根島では、放置されて管理が行き届かなくなった空き家を利用したワーキングスペースの整備が進んでいたり、明日葉の酵母を使ったパンの開発・販売が行われていたりして、すでに島にある資源や特産品を活用する動きがあります。

私は、季節によって様々な種類の植物の花が咲く式根島の豊かな自然環境は、島のもつ大きな可能性だと考えています。そして、その環境を生かし、養蜂に挑戦したいと考えています。この事業が成功すれば、ハチミツや蜜蝋などを使って島の新たな特産品開発ができるため島の産業の発展につながります。また養蜂という新たな職種が増えることで、島内の職業不足の解消に貢献できるのではないのでしょうか。実際に日本各所の離島では、養蜂によってブランド品の開発・生産をするなどの地域おこしを目指す活動が行われています。私も将来式根島でそのような取り組みをしたいです。そのためには、養蜂の技術やミツバチの生態、草花の育成方法などを学ぶ必要があります。そこで私は、園芸高校でそれらの知識を学び、技術を身に着けるための勉強をしたいです。具体的には、バラ園プロジェクトに参加し、校内のバラ園を管理することで植物の正しい育成方法を学んだり、三次次に行く課題研究で実際に養蜂を体験し、ミツバチへの理解を深めたりしたいです。

私は中学校での学習で、地域振興のためには地域の問題点に着目し解決方法を考えるだけでなく、地域がもつ可能性にも目を向けたり、視点を変えて問題点の中から可能性を見つけたりすることも大切なのだと感じました。この考え方を忘れずに、これから園芸高校で農業に関する様々な勉強をして経験を積み、大学進学や就職などを通して農業や養蜂、地域社会への理解を深めたいです。そして、いつか式根島で養蜂家として開業し、島の産業を盛り上げることができる人間になりたいです。